

水の大切さについて

木下 楓香

小郡市立 東野小学校

水は、人が生きるためのとても大切な物です。おもに必要な水量は、一日あたり二リットルといわれています。人間の体の六十％〜七十％は水分でできているため、水分をしっかりと取らないと体調不良の原因にもなります。

人間が飲む以外にもトイレやお風呂など、わたしたちの生活では、水を多く利用します。例えば、トイレなら一日あたり百五十一リットル使用し、お風呂だと百三十リットル使用するのが平素的だと言われています。それ以外にも家事や洗たくなど皆さんの場面で水を使うのでそれらを全て合わせると日じよう生活だけで約五百リットルの水を使うこととなります。

そんな大切な水について、さらにくわしく知るため、わたしは宝満川浄化センターに行きました。

浄化センターは、工場や家庭から流されるよごれた水をきれいにし、川や海にもどす役割をしています。よごれた水をきれいにするために、約十二時間かかるそうです。水をきれいにするために、び生物とよばれる小さな生き物がよごれた水の中にあるものを、えさとして食べ、きれいにしてくれます。び生物がよごれを食べ、水をきれいにするのに約十二時間かかるそうです。び生物のおかげで川や海が、きたなく、にごった水にならず、美しくきれいな水になっているのです。

このことを知ってわたしは、び生物が水をきれいにし、森やしぜん

などの美しさを守っていることが分かりました。

でも昔は、とてもきれいだった川や海などがきたなくなっていたり、ゴミがちらかっていたりします。川や海がきたないと、魚がすめなくなったり、ゴミを食べた魚を人間が食べると、体調にえいきょうが出たりするそうです。だからわたしは、川や海をきれいにたもつため、ゴミをひろったり、町をきれいにするボランティアにすすんでさんかしようと思いました。

また、学校では、トイレにトイレトペーパー以外の物を流したり、水を出しっぱなしにしないように、委員会できかけられています。わたしも、気をつけていきたいと思っています。

今回学んだことで、水の大切さがあらためてよく分かりました。また、び生物について、くわしく知ることができました。人間にとつて、なくてはならない水を、みんなできれいにたもてるように協力が必要です。

これからわたしは、学んだことを活かし、水を大切にしていきたいです。

せつ水をしたり、かんきょうについて学んだり、さらに水の大切さについて、いろいろな人たちに伝えていきたいと思っています。